

Assembly East 2017

乙 7 テーブル総評

judge 成松（早稲田 4）、吉田（UT 4）

テーブルメンバー

橋本（法市 3）、佐野（立教 2）、糸山（慶應 2）、富永（慶應 2）、原（東洋 3）、佐藤（立教 2）、亀島（早稲田 2）

はじめに

Assembly East お疲れ様でした。皆さんが繰り広げたディスカッションが少しでも後輩のためになるように総評を書きます。Judge とテーブルメンバーでは議論の理解の齟齬などあるやもしれませぬがご容赦ください。議論の流れ、順位と選定理由という順に書かせてもらいます。

議論の流れ（文責：吉田）

Narrow~OP 決め

富永の威勢のいい narrowing から議論が始まりました。OP candidate は二人。一つは橋本の、脳死下臓器提供を強制するという usual な opinion sheet。もう一つは原の、日本国民にドナーカードを書くことを強制するという、普段目にする opinion sheet より現実味のありそうなもの。結果選ばれたのが橋本だったので、OP 決めの際の QA からしか推測できないが、原曰くこのプランだと DA が生じないという想定で、DA と思われるものが出てきたら、その都度 spike plan など消していって take plan を目指すという、procedure も一捻りしてあるものであった（解釈が間違っていたらごめんなさい）。この日のためにしっかりと準備してきたのであろう。しかし、この opinion sheet での議論はかなり普段と違うものになりそうと警戒されている部分は否めなかった。vote の結果、OP は橋本になりました。

Problem, Harm, SOH, Cause

後の議論につながるような話はあまりなされていませんでしたが、最低限必要な ASQ という感じですね。

NFC

佐野による obj がなされました。プランは脳死者を犠牲（sacrifice）にするものであり、過去に人を犠牲にして誰かを助けるような事例はないので、TG を救うべきではないというものでした。橋本から Mandate を想定している obj なので、Mandate を確認してから話すべきではないかという提案で Comparison にて話されることとなりました。佐野の意図としては、過去の似たような事例を持ち出すことで切って欲しかったとのことなので、意図に

添えた **treat** がなされていたかは疑問が残りますが、その先の話し方は提示されていなかったもので、まあ仕方ないでしょう。

ちなみに検証中の **Q** など、糸山、富永などが、割といい介入していました。**Sacrifice** というけどつまるどころ **kill** と同じですよ。であれば、**brain dead** のことを死人ではなくて生きている人として認識してるんですよ。という風に相手が前提としているところを暴いていくアプローチを取っていました。コンテンツに寄り添った介入ですが、そこから論点抽出、話し方の提示、反論まで持っていけないとテーブルに結論を残すには至らないですね。

Practicability (プラカビリティって言う人いるけどやめてくれー)

富永による骨のある **obj** をかなり時間を使って検証していました。**obj** の内容としては、このプランは、日本国憲法第 13 条で規定される、基本的人権の尊重に抵触するので、**take plan** することは出来ないというものです。**Warrant** として、憲法第 99 条により、政府には憲法の擁護義務があるということも付されていきました。まあいわゆる **against constitution(a/c)** というやつですね。

まず、糸山が **comparison** の結果から **a/c** かどうかを判断しようという **suggestion** を打ちますが通りません。助太刀する形で橋本が **a/c** と **no practicability** の **linkage** を詰めます。富永の主張としては、99 条は **add task** の理由足り得るので、**task** に反するから絶対的に **take plan** たり得ないというもので、反論するなら **a/c** だが **take plan** 出来た例を提示しろというスタンスでした。

橋本により、裁判所視点で **a/c** でも日本政府視点（解釈）で **a/c** でなければ **take plan** できるという主張がなされます。また、ダム建設の際の現地住民の立ち退き、一票の格差の例が、先程富永が要求してきた例にあたると追い打ちをかけます。糸山、佐野、原による援護射撃もありましたが、しっかりと一つの **procedure** の上に乗って議論が進んでいなかったため、どの主張も検証には至らず、テーブルメンバーに苛立ちだけが残ります。

硬直状態の末、糸山、佐野、原が提示していた話し方を橋本がまとめて、どの話し方で進めていくかを **vote** で決めることとなります。1. **Add task** するかどうかを **vote** で決めようという佐野の **Suggestion**、2. 富永に主張の一つ一つの **burden proof** を負わせ、検証していかうという糸山の **Suggestion**、3. **Practicability** の **task** について完全に **OP** の定義したものを採用しようという原の **suggestion** が選択肢でしたが、結果 3. が選ばれました。**OP** が **practicability** で証明しているものへの直接的な反論でないということで、かなり強引で中身に触れることが出来ませんでした、ようやく富永の **obj** は収束しました。

非常に時間がかかったこのエリアですが、足りなかったものは大きく 2 つ。一つは全ての論点を抽出する **confirmation**、もう一つは一つの **procedure** のもとで議論を進めていけるだけの推進力でしょう。口頭でも富永の主張に対する反論はあったのだからそれを話せるように、かつ結論を得られる形で **procedure** を引けるとよかったですね。

DA 決め

日本政府によって殺される脳死患者（佐野）、脳死患者の家族（糸山）、人権を剥奪された脳死患者（富永）が DA の候補として提示されました。富永により、佐野の案と富永の案は似ているため一つにしないかという提案がなされますが、その後の **comparison** における議論を想定するとどちらにも独自性があるという理由で却下されました。Vote により、糸山の案が選ばれ、橋本が **comparison** のロジックを出すところで時間が来たため議論が終了した。

順位と選定理由（文責：成松）

1 位 橋本（法市 3）乙ーランク獲得

オピニオンプレゼンターとして AD 立論に至ったこと、そして今回は議論の停滞が多く見られた中で **Confirmation** や **Suggestion** により主体となって議論を進めたことを評価し 1 位（乙ーランク）としました。彼女は持ち前の元気により停滞時にも関わらず雰囲気の良いテーブルを作り出していたことも印象的で、多くのテーブル上の話は最終的に彼女の手のひらの上で結論付けられていました。今後は後輩のエデュケとともに自分のディスに対する考えも日々アップデートすることを忘れないでください！現役の時に気付けなかったことに気付けます！何はともあれ、お疲れおめでとう！

2 位 糸山（慶應 2）

議論の停滞が多く見られた中で積極的な介入、中でも **Suggestion** により議論の進行を試みていた点を評価しました。ただ、ここで話を整理するカンファメーションが 1 位の橋本と比べ少なかったこと、結果的に出した **Suggestion** がなかなか通らなかったことから 2 位としました。しかし今回の **Discussion** から糸山は停滞を打破するための発想力が長けていると感じ、糸山の介入から議論が動き出す場面もいくつか見られました。ぜひ今後はその発想活かし自分で通すための力を身につけて来年リベンジしてください！応援しています！

3 位 佐野（立教 2）

自分の意見を反論として提示したこと、**Confirmation** により議論を落ち着かせようとする介入が見られたことを評価し 3 位としました。今回惜しい点としては 2 位の糸山と比べ発言量は大差ないものの、自分の **Confirmation** から **Suggestion** へ上手くつなげることがで

きていなかったことが挙げられます。しかし佐野は介入が丁寧で **Confirmation** 自体は苦手ではないのかなと感じたので、**QCS** の流れに磨きをかけさらなる成長を期待しています！ファイト！

4 位 富永（慶應2）

今回彼の介入は主に **Practicability** への反論でしたが、終始「A/C か確認しないと **AD** を得ることができない」と主張するに留まってしまったため 4 位としました。また、この主張に対する「**Practicability** では **Mandate** を施行するための **technology** があれば良い」という反駁を踏まえた上でなぜこの議論が必要なのか展開させることができればこの順位は変わり得たと思います。しかし、ここまで自分の意見を提示し続けることはなかなかできることではないので、今後もその諦めない気持ちは持ち続けてください！まだまだいける！

5 位 原（東洋3）

序盤に定義詰めや考えを引き出す介入が多く見られたものの、中盤以降あまり介入が見られなくなってしまったことから 5 位としました。後半の停滞時はやはりチャンスで、図らずも第三者的立場であったことを利用して主張の深堀や **Suggestion** につなげることができたかと思います。また最近では東洋のインナーのエデュケをととても頑張っているとの話を耳にするので、ぜひ自分の悔しさや後悔を糧に後輩を育ててくれたらなと思います！まだまだこれからだよ！そして現役生活お疲れ様でした！

6 位 亀島（早稲田2）

介入が非常に限定的になってしまったことから 6 位としました。確かに自分が介入できない時間が続くと質問や反論をすることが少し憚れるかもしれませんが、まずは自分が考えたことをテーブルに出してみることが大事であると思います。それが上達するための第一歩です！まだまだ来年に巻き返すことは可能なので頑張っていきましょう！

7 位 佐藤（立教2）

介入が見られなかったため 7 位となりました。色々な理由はあったと思いますが、3 時間を有意義に活用するためにもテーブルへ思い切って飛び込んでみましょう！いきなり春セミやアッセンのように順位のつく大会が敷居が高いのであれば、まずは今後の通常のオープン大会で目標を立てて一つずつクリアしていけば来年はまた違った景色が見えるかもしれません！